

# コシヒカリ生育情報 第7号

## 高温続く！適切な水管理と穂肥で収量・品質確保

【7月25日生育状況】（管内3か所平均、平均田植日5/17）

○葉色(SPAD)：32.4（指標値差 -1.2 やや淡い）

- ・葉色は指標値を下回っており、前回からさらに低下した（7月20日から2.1ポイント低下）。
- ・高温で推移したため、出穂期は平年より3日早まる（5月20日田植えの場合、8月2日出穂期）と予想されており、遅れない対応が必要である。
- ・早期天候情報では、7月30日頃からかなりの高温が予想されている（7/24新潟地方気象台発表）。

【今後の管理のポイント】～これ以上葉色を低下させないための対策を～

### 1 最も水が必要な時期！飽水管理を徹底

飽水管理により、根の活力を維持するとともに、地温の上昇を抑える。また、穂肥成分の溶出を図る。

<飽水管理>

水尻は止水し、自然減水で田面の水がなくなり溝や足跡の底に水がたまっている箇所が散見される状態になったらかん水すること。

### 2 葉色が淡い場合は追加穂肥

(1) 分施肥体系の場合

2回目穂肥後も葉色が淡い場合は、追加（3回目）穂肥を施用する。

肥料の種類	判断時期・葉色のめやす	施用時期・N成分量
化学肥料	出穂期3日前の葉色 SPAD値31以下のとき	出穂期3日前 1kg/10a以内
有機50%肥料	出穂期6日前の葉色 SPAD値33以下のとき	出穂期3日前 1kg/10a

(2) 全量基肥施肥体系の場合

判断時期・葉色のめやす	施用時期・N成分量
出穂期の葉色 SPAD値32～33を下回ると予想されるとき	出穂期10日前まで・1kg/10a以内

※有機100%肥料の場合は、出穂期10日前の葉色がSPAD値30以下のとき、出穂期10～5日前頃に窒素成分で2kg/10aをめやすに施用する。

### ※ 2回目穂肥は必ず施用

- ・分施肥体系では出穂期10日前に窒素成分で1～1.5kg/10aを必ず施用する。
- ・1回目穂肥を遅らせた場合は、1回目穂肥の7日後をめやすに2回目を施用する。

### 3 病虫害防除の徹底

- (1) 斑点米カメムシ類の薬剤防除は、出穂期を把握し、各薬剤に応じた適期に行う。水面施用剤は、水深3cm程度の浅水条件で、できるだけ散布後好天が予想される日に散布する。
- (2) 他の品種で葉いもちの発生が見られるため、いもち病の早期発見に努める。

農作業中の熱中症に注意しましょう。こまめな水分と塩分の補給や休憩が大切です。